

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ	
-----------	--

② 施設・事業所情報

名称： パステルファーム ワーキングセンター	種別： 生活介護	
代表者氏名：前澤 陽一	定員（利用人数）： 40名（利用人数61名）	
所在地：相模原市中央区田名5012-5		
TEL：042-760-3170	ホームページ： http://www.tomoni.or.jp/pastel_f/index.html	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1994年5月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 県央福祉会		
職員数	常勤職員：23名 非常勤職員：22名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	支援員：41名	事務員：2名
	看護師：2名	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	作業室：4 食堂：1 相談室：1 会議室：1 静養室：1	トイレ：2 洗面設備：1 温室：1

③ 理念・基本方針

<p>法人の理念</p> <ol style="list-style-type: none">1、障がい児・者、高齢者のノーマライゼーションの実現から共生社会を目指します。2、社会・福祉・介護ニーズに応えるべく、先駆的で開拓的な事業を展開します。 <p>基本理念（パステルファームワーキングセンター） 利用者の自分らしい生活を、一緒に創る。</p> <p>方針（パステルファームワーキングセンター） パステルファームワーキングセンターは、法人の県央福祉会の事業計画にのっとり、障がいのある方たちが自分の可能性、存在を高く評価し、自らの成長を求め生活を切り開いていくことができるような権利の主体形成を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none">①管理者をはじめ職員は、利用者さんが生産活動及び様々なプログラムに、目的意識を持って前向きに取り組むことができるように支援します。②パステルファームは、利用者さんが地域社会の一員として生きがいをもって暮らすことを目指し、土・日の日中支援等の在宅サービスを開拓し、実践を通じて検証するものとします。③事業所の職員の専門性や支援力を育て明日の職員を育成します。

④ 事業所は、現状の事業遂行状況を正しく把握するために、独自の事業計画を立てご利用者、ご家族と共有します。

④施設・事業所の特徴的な取組

パステルファーム ワーキングセンターでは、仕事・余暇・生活・地域と幅広く利用者様が様々な部分で関わりが持てるように、プログラムを多数用意しており、自己選択・自己決定を中心に据えて支援を行っています。
また職員の専門的な知識を習得する為の研修や実践での学びから疑問・質問等を外部のスーパーバイザーを月に1度呼び指導等教育の場を設けています。
また法人としては、自閉症研修の開催や当事者目線で考える階層別に合わせた研修なども行っている為、時間調整をしながら常に向上心を持って職員が日々働けるような環境作りを行っています。
週末の部分もグループホームでの生活で全ての利用者がより良い時間を過ごすことが難しい場合もあり、毎週土曜日は、余暇活動をメインとした外出プログラムをパステルファームの考え、提供をしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年5月16日（契約日） ～ 令和4年11月8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（ 2019年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) 利用者の生活が豊かになるように、様々なプログラムを実施しています
利用者が地域社会で豊かに自分らしい生活ができるように余暇活動と生活プログラムを提供しています。週末のグループホーム等では全ての利用者がより良い時間を過ごすことが難しい場合もあるため、毎週土曜日は余暇活動をメインとした外出プログラムを提供することがパステルファームの努めと考え、土曜プログラムを実施しています。余暇活動としてアート・ウォーキング・リモートツアー工作など利用者が好きな活動を選ぶことができます。利用者や家族の高齢化に伴う生活環境悪化などの課題に対応するため、土・日の日中支援等の在宅サービスも提供しています。

2) 利用者の自己決定を尊重し能力を発揮できる環境を整備しています

日中活動では、園芸・ハーブ製品・煎餅、製菓・商品の袋詰めなど6つのグループに分けて活動しています。作業種や工程を記載した複数のシールを準備し、利用者自身がシールを選び、1日の作業内容を決定しています。作業室内に絵や写真を貼ったスケジュール表を掲示したり、作業台に絵や写真を貼ることにより、利用者が能力を最大限発揮出来るよう作業環境を整備しています。余暇活動においても、複数のプログラムや行き先の中から、利用者自身がプログラムや行き先を選択しています。

3) 利用者の障害特性に応じた支援やコミュニケーションの工夫をしています

個別的な配慮が必要な利用者には、スーパーバイザーから助言を得るとともに、利用者の行動や生活の変化を踏まえ、コミュニケーションや環境整備に取り組んでいます。例えば、活動場面では安心して作業に取り組めるよう、作業エリアにパーテーションを設置して刺激を遮断しています。また、スムーズな場面の切り替えを支援するために、日課や作業の切り替え時の誘導の際に、写真や絵カードなどを用いて視覚的な情報を提供したり、タイマーで聴覚的な情報を提供するなどしています。

4) 単年度事業計画の基となる中長期計画策定作業の推進が望めます
法人の理念、基本方針を具体化していくためにも中長期計画は重要です。法人は新たな中長期計画の策定中のため、単年度計画が主に前年度の事業計画評価・反省を踏まえて作成されています。新理事長のもと、事業所の特色を活かした目標や方向性が明確になるような中長期計画のすみやかな策定が期待されます。

5) 職場環境整備により情報共有が進むことが期待されます
職員からは、人手不足と業務量の課題があげられています。ベテランと新人の関係やシフトなどの工夫により、職場環境の整備が望めます。職員バランスによる業務の平準化と職員間の情報共有を進めて支援内容を充溢することが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度は9月1日付けで当事業所の管理者に就いたのと同時期に、第三者評価の資料作りに携えた事は大変自分の中で有益になりました。

事業所の運営や業務に関して細部にわたるまで、学ぶべき点や知る事が出来ました。

今後は手元に置き、時々見返しながら管理者としての業務を行っていきたい考えています。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり